

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成20年度 知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	奥戸福祉館
評価機関名称	株式会社 にほんの福祉ネット
評価者	修了者No.H0201052 修了者No.H0601066 修了者No.H0302015
評価実施期間	2008年6月9日～2008年11月21日

全体の評価講評

詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- 地域との連携を重視し利用者の継続した生活に着目した支援の充実
- 工賃アップおよび就労移行に向けた着実な計画と実行
- 利用者・家族の意向に基づいた個別支援計画の実行

✓さらなる改善が望まれる点

- 新体系への移行を踏まえた体制の整備・充実に向けた取り組み
- 職員個人に着目した能力開発の組織的な取り組み
- 予防的視野からの利用者の健康管理に対する支援の充実

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら - やりたいことへの段階的なチャレンジ - 希望をもって働ける環境 - 風通しのよい環境	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら - やる気につながる自主性の尊重 - 個性を最大限発揮 - 一般就労に向けて将来の安心	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら - 働く原動力、バランスのよい食事 - おいしく召し上がれる為の工夫	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら 生活改善と自立心	

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 健康状態の不安から安心へ
- 正しい知識から適切な対応

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 手作りで多種多様な楽しみの場
- 選挙権からの権利意識

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 家族等への信頼と安心
- 適切な情報提供

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 計画された展開と地域とのつながり
- 継続的な取り組み

評点の内容
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあはせは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の
順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
10/41

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	100.0%	どちらともいえない:0.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	80.0%	20.0%	どちらともいえない:0.0%	いいえ:0.0%
3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	80.0%	10.0%	10.0%	いいえ:0.0%
4. 施設の設備は安心して使えるか	80.0%	10.0%	10.0%	いいえ:0.0%
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	90.0%	10.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	80.0%	20.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
7. 職員の対応は丁寧か	80.0%	10.0%	10.0%	いいえ:0.0%
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	70.0%	20.0%	10.0%	いいえ:0.0%
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	100.0%	どちらともいえない:0.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	はい:0.0%	どちらともいえない:0.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
11. 不満や要望を事業所や職員	80.0%	20.0%		

に言いやすいか	いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	90.0% 10.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	40.0% 10.0% 40.0% 10.0%

はいどちらともいえないいいえ無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼コメント

平成20年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	奥戸福祉館
評価機関名称	株式会社 にほんの福祉ネット
評価者	修了者No.H0201052 修了者No.H0601066 修了者No.H0302015
評価実施期間	2008年6月9日～2008年11月21日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

● 地域との連携を重視し利用者の継続した生活に着目した支援の充実

地域に根ざした福祉施設として、運営法人の総合的な支援体制、各種サービスおよび地域関係機関や人々との連携により、利用者の生活全般をとらえた継続した支援を意識した事業運営・支援に取り組んでいる。行事を通じた町会や近隣の学校との交流を始め、地域清掃やパンの販売等を通じた地域の人々との交流、さらに、利用者の地域における自立した生活に向けた短期の訓練等の地域生活体験などの積極的な取り組みが行われている。事業所内の就労・活動とともに、利用者の一人ひとりの状況を踏まえた幅広い視野での支援体制がとられている。

● 工賃アップおよび就労移行に向けた着実な計画と実行

法人の「第三次プロジェクト」の一環として各利用者の工賃アップを重点課題としてとらえ、受託作業のみならず自主生産の拡大へ取り組み、パン製品等の事業の拡大とともに、就労継続・就労移行を意識した支援の取り組みが計画的に遂行されている。特に、希望する利用者に対する企業等への就労移行に向けた支援にも力を入れて取り組んでいる。利用者の一般就労にいたる過程における個性を活かす努力やさまざまな工夫の努力がうかがえる。こうした取り組みは就労希望者にも安心感と意欲をもたらす活動として高く評価できる。

● 利用者・家族の意向に基づいた個別支援計画の実行

従来から使用していた個別支援計画作成ソフトの活用に加え、支援経過記録に関する個別日誌ソフトを導入し、一人ひとりの利用者の個別支援計画の策定、実施、モニタリング、評価のプロセスの充実とともに、記録情報の充実・効率化、職員間の情報の共有化が推進された。支援経過についても専用のソフトを活用することで、きめ細かな課題分析が行なわれ、今まで以上に利用者の状態が把握しやすくなり、個性と自主性、主体性を尊重し、統一した対応が可能となっている。

✔さらなる改善が望まれる点

● 新体系への移行を踏まえた体制の整備・充実にに向けた取り組み

三年毎に法人の長期計画を策定し、事業所の中・長期的な計画及び年間計画に基づき、その計画が着実に実行されている。現在、第三次プロジェクト検討委員会でまとめた計画の最終年度として取り組みが着実に実践されてきている点は評価に値する。現在検討されている第四次プロジェクト計画およびその実践において、障害者自立支援法の新体系移行を踏まえた、区、法人さらに関係機関との連携のもとに、体制の整備・充実にに向けた組織的な取り組みが期待される。

● 職員個人に着目した能力開発の組織的な取り組み

職員の研修ニーズおよび経験等に基づいて研修への参加を促し、組織としての能力向上に力を入れていが、職員ごとの育成計画に基づく計画的な取り組みを行うまでには至っていない。人事考課制度を用い職員側からの課題などの意見をもとに人材育成することで、モチベーションの維持・向上につながり、利用者対応に反映され相乗効果が期待できる。今後の課題としては、今後は、目標管理的な人事制度の一環として、職員個人に着目した育成計画策定などの組織的な取り組みの充実が求められる。

● 予防的視野からの利用者の健康管理に対する支援の充実

事業所では、年1回の定期健康診断の他3ヶ月に1回の歯科検診、毎月の身体測定や血圧測定を実施している。また、嘱託医との連携により月1回の内科相談日を設けるなど利用者の健康管理に取り組み、保健給食委員会が中心となって栄養指導等の指導・助言も行われている。今後も継続して、主治医との連携・協力体制の充実、家族との

状態変化などについての密な情報交換、職員の研修等による予防的視野からの取り組みの充実が期待される。

[このページの一番上へ](#)

コメント

利用者調査においては、事業所の行事の様子を伝える写真などを活用しつつ、利用者が可能な限りリラックスした状態で聞き取りに応じられるよう配慮した。また、別途家族アンケートを実施し、利用者家族から見た事業所像についての把握にも努めた。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成20年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

[<<前の評価結果を見る](#)

事業所名称	奥戸福祉館
評価機関名称	株式会社 にほんの福祉ネット
事業評価実施期間	2008年9月10日～2008年11月21日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら	
- 運営理念・運営方針を明確にした事業運営に取り組んでいる - 利用者の生活全体をとらえた幅広い視野で運営に取り組んでいる。 - 事業運営について職員の意見を取り入れたしくみがある。	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら	
- 事業運営の透明化に積極的に取り組んでいる。 - 地域に対しても関連情報の提供を行い機能・専門性を活かした取り組みがみられる。 - 地域との交流を心がけた取り組みに力を入れている。	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】 詳細はこちら	
利用者・家族の意見に耳を傾ける丁寧な対応がみられる。	

- できる限り各利用者の希望に沿うような支援を目指す事業所の取組みがみられる。
- 地域ニーズの収集を積極的に行い、事業運営に活かされている。

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら ● 中・長期的な計画及び年間計画に基づき、その計画が着実に実行されている。 ● 利用者の工賃アップを重点課題とした計画的な取り組みが進められている。 ● 重層的な取り組みによる安全管理がなされている。	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら ● 事業推進グループに応じた職員配置が行われている。 ● 職員個人に着目した育成計画策定などの取組みが課題となっている。 ● 組織的な取り組みによる職員間の連携・協力体制の充実が求められる。	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら ● 各種情報・データ管理には、プライバシー保護に対する方針が反映されている。 ● 「個人情報保護規程」に則った運用を基本としている。 ● 個人情報の保護に向けたきめ細かな取り組みの継続・充実が期待される。	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら ● 計画に関する着実な実行が確認できる。	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点

1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 職員が一丸となって利用者の工賃アップに取り組んでいる。	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 個別支援計画の策定・記録に関する充実が図られている。	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 就労の場としての位置づけを明確にした取り組みが行われている。	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 就労移行へ向けた積極的な取り組みが行われている。	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果

サービス分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成20年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	奥戸福祉館
評価機関名称	株式会社 にほんの福祉ネット
事業評価実施期間	2008年9月10日～2008年11月21日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】詳細はこちら - リアルタイムの情報発信 - 開かれた施設	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者主体性の尊重 - 個別の生活状況を反映した支援 - 安心できるアフターケア	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】詳細はこちら - ありのままの状態から個性を最大限 - 情報の共有と相互理解 - つながりを大切に実践	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】詳細はこちら - 安心できる守られた環境 - 自己選択、自己決定	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】詳細はこちら - すぐに手に取り実践できるマニュアルへ - 実用的で活用できるマニュアル	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら • やりたいことへの段階的なチャレンジ • 希望をもって働ける環境 • 風通しのよい環境	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら • やる気につながる自主性の尊重 • 個性を最大限発揮 • 一般就労に向けて将来の安心	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら • 働く原動力、バランスのよい食事 • おいしく召し上がれる為の工夫	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら • 生活改善と自立心	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら • 健康状態の不安から安心へ • 正しい知識から適切な対応	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら • 手作りで多種多様な楽しみの場 • 選挙権からの権利意識	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら • 家族等への信頼と安心 • 適切な情報提供	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら • 計画された展開と地域とのつながり • 継続的な取り組み	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)
[事業評価結果](#)
[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)

評価の見方

他年度の評価結果

[平成19年度評価結果](#)
[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 利用者調査結果

利用者調査結果



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

[▼調査概要](#)
[▼調査結果全体のコメント](#)
[▼調査結果](#)
平成20年度
知的障害者通所授産施設[経過措置]
[＜＜前の評価結果を見る](#)

事業所名称	奥戸福祉館
評価機関名称	株式会社 にほんの福祉ネット
利用者調査実施期間	2008年9月10日～2008年10月9日

調査概要

- **調査対象**: 奥戸福祉館の利用者41名のうち、聞き取り調査が可能な方10名を対象に調査を行った。
- **調査方法**: 聞き取り方式
午前中の時間を利用して、利用者数10名に対し、評価者および補助者計3名で聞き取りを行い、利用者一人ひとりへの時間的負担の軽減を図った。また、家族を対象に独自のアンケート調査も行った。
- 利用者総数: 41人
- 共通評価項目による調査対象者数: 10人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 10人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 24.4%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

回答者の90%が「大変満足」、「満足」と回答しており、概ね施設での生活や活動に満足していることがうかがえた。問13を除く全ての項目で、10名中7名以上が「はい」と回答し、特に、日常の活動のやりがいや友人関係に満足を感じていることが、聞き取りの際の応答や表情からもうかがえた。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 仕事など日常の活動はやりがいが持てるか

はい	10人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

回答者全員が「はい」と回答した。「楽しい」「がんばりたい」との声も聞かれた。

2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか

はい	8人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	2人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

調査対象者の80%が「はい」と回答した。支給日を明確に答えられる方も見受けられた。なお、設問内容の理解が十分でない利用者も一部に見うけられた。

3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か

はい	8人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

「その時その時に応じて対応してくれる」「そばにいますのですぐに聞ける」といった声も寄せらるなど、概ね十分な支援を受けていることがうかがえる結果となった。「どちらともいえない」については、明確なコメントはなかった。なお、設問内容の理解が十分でない利用者も一部に見うけられた。

4. 施設の設備は安心して使えるか

はい	10人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

はい	8人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「職員が整備している」とのコメントがよせられるなど、概ね安心して使えるとの認識がもたれていることがうかがえる。なお、設問内容の理解が十分でない利用者も一部に見うけられた。

5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	9人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
調査対象者90%が「はい」と回答し、他人の前で言われたくないことや他人に知られたくない事柄などについて、十分に配慮されていることがうかがえる結果となった。

6. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	8人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
調査対象者の80%が「はい」と回答した。「趣味のことなどよく話を聞いてくれる」「みんな優しい」といった声も寄せられた。

7. 職員の対応は丁寧か

はい	8人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
調査対象者の80%が「はい」と回答した。「〇〇さんと呼ばれる」との声も寄せられる一方、「たまにきつい言葉がある」との声も聞かれた。

8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか

はい	7人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
調査対象者70%が「はい」と回答した。なお、設問内容の理解が十分でない利用者も一部に見うけられた。

**9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】
個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか**

はい	10人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
回答者全員が「はい」と回答した。丁寧な説明が行われていることがうかがえる。

**10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】
サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか**

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか

はい	8人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
「実習のころから気軽にいえる」「遠慮せずに言える」といった声が寄せられるなど、概ね意見を言いやすい環境であることがうかがえる結果となった。

12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	9人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
回答者の90%が「はい」と回答した。要望を出したことがなくとも、「きちんと対応してくれる」という信頼感がベースにあることがうかがえる。

13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	4人	どちらともいえない	1人	いいえ	4人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
事業所内にも掲示しており、その存在を認識している利用者もいる一方で、設問内容の難しさのせいか、理解が十分でない方も見うけられた。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定



リーダーシップと意思決定



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

運営理念・運営方針を明確にした事業運営に取り組んでいる

「利用者の人権と自己決定」の尊重、「社会人として、生きがいと喜びを持てる『働く場』の提供」、「自立と社会生活」などの運営理念は、年間事業計画の冒頭に明示し、年間の運営方針を明確にした事業運営に取り組んでいる。職員に対しては、計画作成段階や年度始めに説明を行い、年度始めに利用者の話し合いを持ち、家族連絡会において説明し資料を配布するなど理解を深める取り組みを行っている。さらに、ホームページや「原町かわら版」(法人の機関誌)などを通じて明らかにすることにより、第三者に対しても、事業所の取り組み明確にしている。

利用者の生活全体をとらえた幅広い視野で運営に取り組んでいる。

法人の事業計画書や管理規程において、業務分担として経営層および一般職員の役割と責任を明確にし、日頃の会議を通じて確認し実践につながっている。さらに、館長・副館長を中心として、日中のみならず利用者の生活全体をとらえた幅広い視野で事業運営に取り組んでいる。倫理綱領等を事務室の会議スペース脇に掲示し会議中に振り返るなど、職員間で共有し深める取り組みもみられる。

事業運営について職員の意見を取り入れたしくみがある。

金銭の支出が伴う事項等については、稟議書決裁規程に従って対応している。特に重要な事項の決定に際しては、あらかじめ職員に下ろして討議、主任会議での方向付け、拡大主任会議、職員会議における全体討議というプロセスをとることで、決定への職員の主体的な参画が図られ、利用者・職員の意見が反映できるような事業所の姿勢が見られる。利用者や家族に対しても、毎月実施される利用者みんなの集いや家族連絡会を通じて決定内容・経緯の説明が行われている。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	○ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

事業運営の透明化に積極的に取り組んでいる。

守るべき法・規範・倫理などについては、法人の事業概要および倫理綱領等において基本姿勢を明示している。また、運営規程や各種マニュアルさらに職員会議等においてその具体的な対応を明確にしている。ホームページや「原町かわら版」(法人の機関誌)などを通じて、事業所の取り組み明確に示し積極的な情報提供を行っている。さらに、第三者評価にも積極的に取り組みその結果を館内に掲示、家族連絡会においても報告するなど、事業運営の透明化に取り組んでいる。

地域に対しても関連情報の提供を行い機能・専門性を活かした取り組みがみられる。

見学の受入れ、やまも祭りの開催により、一般の人々が障害者や施設を身近に感じ理解する機会を設けるよう努めている。近隣の町会に祭りに協賛してもらうなどの協力体制も構築されつつある。また、見えやすい場所に区主催の学習会のチラシを掲示するなど、地域住民に対しても関連情報の周知を行っている。副館長他2名(計3名)をボランティア担当者として配置し、希望者の学校でガイダンスを行うなど、積極的に受入れを行っている。、面接時に留意事項の説明を行い、秘密保持に関する誓約書を活用するなど利用者のプライバシーにも留意している。

地域との交流を心がけた取り組みに力を入れている。

近隣の小学校の4年生の生徒を招き、館内見学と作業体験を実施し交流を続けている。また、中学生等を対象とした職場体験学習なども受け入れている。利用者が班に分かれて学校訪問を行ったりするなど、地域との交流を心がけた取り組みを積極的に行っている。施設長会議を含む法人内外の会議や事業者連絡会、協同販売会議等に担当者が参加している。また、区の就労支援担当者会議への参加を通じて、利用者の自立支援という全事業所共通の目標に向かって取り組んでいる。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A
標準項目	 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み	

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A
標準項目	 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み	

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A
標準項目	 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A
	 ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している

標準項目	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者・家族の意見に耳を傾ける丁寧な対応がみられる。

利用者の日々の支援において利用者の意見に耳を傾ける事業所の姿勢が感じられる。また、個別支援計画の作成や見直しの際に、定期的に利用者・家族の意見を聴取し、相談があればその都度面談を行うなど柔軟な対応がもされている。また、意見・要望に対する丁寧な対応を心がけていることもあり大きな苦情が少ない状況にある。苦情解決のための第三者委員会を含めた体制については、重要事項説明書に明示するだけでなく館内にも掲示している。利用者・家族にもその存在が比較的浸透している状況もうかがえる。

できる限り各利用者の希望に沿うような支援を目指す事業所の取組みがみられる。

利用者に対しては、自治会の運営・開催の機会を提供しており、様々な意向が上がりやすい雰囲気作りとともに、風通しのよい環境作りが心がけられている。また、年度末には利用者に対して個別に、希望する作業や余暇活動に関するアンケート調査を実施するなど、できる限り各利用者の希望に沿うような支援を目指した事業所の取組みがみられる。また、利用者等から相談があれば、その都度面談を含め対応している。これらの取組みで得られた利用者の意向は、案件ごとに職員会議で検討し、可能な限り日々の業務に反映させるような姿勢が見られる。

地域ニーズの収集を積極的に行い、事業運営に活かされている。

施設長が率先して、自立支援協議会、就労支援センター、地域の事業所との連携を図り、地域ニーズの収集を積極的に行っている。さらに、各種研修会への参加や関連情報誌等を通じて福祉全体の動向・情報の収集に取り組んでいる。事業所の運営のみならず、利用者の生活全般をとらえた幅広い視点から、収集した情報を整理・分析し、その全体像の中で奥戸福祉館の位置づけと中長期的な展望を明確に示している。本年度を最終年度とする、法人の第三次プロジェクトが着実に進められ、一定の成果が確認できる状況にある。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A
標準項目	○ 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	○ 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	○ 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	○ 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A
標準項目	○ 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	○ 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	○ 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

中・長期的な計画及び年間計画に基づき、その計画が着実に実行されている。

三年毎に法人の長期計画を策定し、事業所の中・長期的な計画及び年間計画に基づき、その計画が着実に実行されている。現在、第三次プロジェクト検討委員会でまとめた計画の最終年度として取り組みが進められている。さらに、年間を振り返り、総括し、年度ごとの事業計画書が策定されている。短期の計画については、行事の実施など、担当者や日程などを決めて進めている。事業計画において課題・重点課題を明確化し、委員会やプロジェクト組織において法人全体の流れと事業所の方針に従い計画的な取り組みが確認できる。

利用者の工賃アップを重点課題とした計画的な取り組みが進められている。

工賃倍増5か年計画を踏まえ、各利用者の工賃アップを重点課題としてとらえ、様々な事例を参考にしながら、推進している。受託作業のみならず自主生産の拡大へ取り組み、パン製品等の事業を拡大し、就労継続・就労移行を意識した支援の取り組みが計画的に遂行されている。売り上げ目標を明確にして目標達成に向け着実に取り組み姿勢が見られ、毎年目標をクリアしている状況にある。売り上げ目標や個別支援計画における支援経過を振り返り、次年度へ継続していく体制がとられている。進捗状況等は主任会議で随時確認がなされている。

重層的な取り組みによる安全管理がなされている。

利用者の防災・安全管理については、事業計画に基づく消防対策や耐震対策、防災安全委員や防災訓練担当委員などの配置、館長不在時の副館長による職務代行、ヒヤリハット報告書の日常的な活用というふうに、重層的な取り組みがなされている。関係機関と連携した防災訓練や定期通信訓練、火気施設点検などが実施されている。ヒヤリハットの事例も少しずつ減ってきている状況にあり一定の成果となっているが、今後も、ヒヤリ・ハット報告等の予防管理に視点を置いた継続した取り組みの充実が期待される。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A
標準項目	○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○ 年度単位の計画を策定している
	○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A
標準項目	○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み	

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	○ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み	

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上



職員と組織の能力向上



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

事業推進グループに応じた職員配置が行われている。

人事制度に関する方針は倫理綱領や給与規程において明示されている。採用は、事業所主体の採用で、求人は現場の状況を反映し事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行い、事業推進グループに応じた職員配置が行われている。職員の権限とその範囲については、職務規程において、金銭が動く事案については稟議書を提出すべきことを周知している。職員からの気づきや工夫については、各種会議ごとに随時お互いに学ぶことに取り組んでいる。今後、気づきや工夫など提案制度などの組織的な取り組みが期待される。

職員個人に着目した育成計画策定などの取り組みが課題となっている。

研修に関する職員の希望を聞き、経験や適性から外部研修には年間一人1回は参加できるような対応がなされている。研修参加希望者がいる場合は、シフトを優先的に調整している。現在、新人職員には、てんかん・発作対応の研修を義務づけているが、今後の事業展開、サービス向上に向けた統一した新人職員教育への取り組みが期待される。また、研修については、職員ごとの育成計画に基づく計画的な取り組みを行うまでには至っていない。今後は、目標管理的な人事制度の一環として、職員個人に着目した育成計画策定などの取り組みが課題となっている。

組織的な取り組みによる職員間の連携・協力体制の充実が求められる。

法人の倫理綱領や給与規程に基づいて人材マネジメントが行われている。職員の就業状況については、館長と副館長を中心に把握する体制にある。職員の福利厚生活動をバックアップするための「職員互助会」が法人に設置されている。また、会員制の福利厚生組織への参加や事業所独自の互助会を設置するなど、職員の福利厚生の充実に取り組んでいる。職員に求められる能力も高度なものとなっている現状において、組織的な取り組みによる職員間の連携・協力体制の充実が必要となっている。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A
標準項目	☐ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	☐ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	☐ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B
標準項目	☐ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	☒ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	☐ 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	☐ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	☐ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	☐ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	☐ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有

情報の保護・共有

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

各種情報・データ管理には、プライバシー保護に対する方針が反映されている。

各種情報・データ管理には、プライバシー保護に対する方針が反映されている。機密性の高い重要書類等は施設のできる場所に保管し、事業所内のパソコンについてはパスワードを設定し、情報の管理を徹底している。職員間で共有すべき書類に関しては、分類の上ファイルに保管し、職員が必要に応じて活用できるようにしている。また、個人別ファイルは事務室でのみ扱い持ち出しを禁止し、利用者の目には触れないような対応など工夫・配慮がなされている。

「個人情報保護規程」に則った運用を基本としている。

法人の「個人情報保護規程」が作成され、規程に則った運用が基本とされている。基本方針や利用目的は、重要事項説明書において明示し、利用者・家族に周知徹底されている。また、事業所内に個人情報保護に関する基本方針と利用目的を掲示し、さらに、ホームページにおいても、プライバシーポリシーを明示するなど積極的な取り組みがみられる。今後、より一層、職員・利用者・家族の理解の浸透に向けた取り組みが期待される。

個人情報の保護に向けたきめ細かな取り組みの継続・充実が期待される。

個人情報の実際の運用については、個人情報の利用にあり事前に同意を得ることや広報誌への写真掲載の同意書等を活用している。職員には、会議を通じて随時、周知徹底を促している。さらに、ボランティア・実習生などにも同意書等を取り、説明会を通じて注意を促す取組みなども行われ、着実に周知徹底、運用に向けた取り組みにつながっている。今後も、徹底した個人情報の保護に向けたきめ細かな取り組みの継続・充実が期待される。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A
標準項目	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	個人情報の保護に関する規定を明示している
	開示請求に対する対応方法を明示している
	個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	計画に関する着実な実行が確認できる。 2006年より進められている法人の第三次プロジェクト(20年度までのグランドデザイン)、あり方検討委員会における計画に関する着実な実行が確認できる。各利用者の工賃アップを重点課題としてとらえ、受託作業のみならず自主生産の拡大へ継続して取り組み、パン製品等の事業を拡大し、就労継続・就労移行を意識した支援の取り組みが計画的に遂行されている。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	職員が一丸となって利用者の工賃アップに取り組んでいる。 第三次プロジェクト計画の実行において、自主生産品であるパンの売り上げの倍増に結実したこのプロジェクトに参画し成功体験を共有したことで、職員間の連帯感や意欲がより強くなっている状況が確認できる。それを契機として継続して、事業所の役割をより明確にして、職員が一丸となって利用者の工賃アップに向けた、自主生産品および受託作業等の就労支援、および就労移行支援に積極的な取り組みが確認できる。特に、売上に大きく寄与しているパンの販売所の開店等の販売先の拡大については、直接の担当者のみならず組織全体での協力・連携体制の大きな成果といえよう。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	個別支援計画の策定・記録に関する充実が図られている。 個別支援計画の充実の一環として、従来から活用していた個別支援計画作成ソフトの活用に加え、支援経過記録に関する個別日誌ソフトを導入し一人ひとりの利用者の個別支援計画の策定、実施、モニタリング、評価のプロセスの充実とともに、記録情報の充実・効率化、職員間の情報の共有化が推進された。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	就労の場としての位置づけを明確にした取り組みが行われている。 運営法人の全体的な取り組みを背景として、法人内の人事異動を含め、就労の場としての位置づけを明確にした事業所の主体的な取り組みにより、売上においては前年比141%、支払い工賃前年比134%を確保している。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで

評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ３:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	A
改善の成果	就労移行へ向けた積極的な取り組みが行われている。 パン事業、経作業、販売等の事業所における就労のみならず、利用者の希望により一般就労に向けたきめ細かな支援が行われている。法人の就労支援センターおよび区の就労支援センターとの連携を図り、利用者の就労の機会の確保など積極的な取り組みが実践されている。一人ひとりの利用者の状況を踏まえ、情報提供のみならず、中間的な就労の場の活用や企業見学・実習等きめ細かな対応がみられる。その結果前年度の実績として、2名の利用者が一般就労につながっている。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

リアルタイムの情報発信

最新情報も含めて、法人のホームページにおいて、法人概要のみならず、事業所の目的や作業グループの内容といったことまで詳細に公表されている。年間通じての活動内容が手に取るようにわかりやすく情報提供がなされている。また、定期発行されている法人機関誌「原町かわら版」を6ヶ月に1回550部発行し、行政・学校・取引業者等にも配布している。今まで以上にエリアを拡大して地域にも理解が得られる基盤整備が進められている。

開かれた施設

上記のことからも地域と共存して事業を展開していることもあり、問合せや見学についても定期的にあり、その都度対応できる態勢が整っている。いつでもありのままの状態を見て頂けるような雰囲気である。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	○ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応

サービスの開始・終了時の対応

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者主体性の尊重

自宅を訪問し、家庭での様子を踏まえて、状況確認している。落ち着いた状態での対応に努めている為、状況がつかみ易く、ありのままの現状が映しだされている。また、利用開始に伴い、事業概要などパンフレットを参考に説明している。契約書や重要事項についても振り仮名をふるなどの工夫がなされ、相手のペースに合わせて時間をかけながら説明している。

個別の生活状況を反映した支援

家庭訪問から利用開始に至るまでの経過については家庭訪問記録、個人ケース記録に時系列で記載し、個人別にファイル化している。今年度から経過記録のソフトを導入したことでより、効率よく活用することができている。よりご本人、家族の意向が活かされるようになっている。

安心できるアフターケア

利用者の個性性を尊重し、より落ち着いた状態で利用できるように生活環境を考慮して、自らの能力が発揮できるように心掛けている為、就職などで退所した利用者からの相談もあり、その後の様子も連携を図り、情報交換できる体制が整っている。退所したとしても影ながらに支援している姿が伺え、利用者、家族からは絶大な信頼感を得ている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録



個別状況に応じた計画策定・記録



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

ありのままの状態から個性を最大限

初回訪問(家庭訪問)から現在に至るまでの情報をアセスメントシートに記録化したものを参考に課題分析し、利用者、家族の意向を踏まえて個別支援計画を作成する仕組みがあり、客観的にも課題抽出できるようにアセスメントソフトも利用することで満足が得られるようになっている。

情報の共有と相互理解

個別支援計画については半年もしくは1年に1度の見直しが原則ではあるが、利用者の状態の変化に伴い、柔軟に変更できる仕組みとなっている。作成された計画は利用者、家族の同意のもと実行するようになっている。このことは事業所全体でも会議などを通じて情報の共有が行われている。

つながりを大切に実践

定期的に計画と実行が行われていることもあり、着実に身になるものとなり、個別ニーズが満たされていることが評価されている。ひとりひとりにじっくりと時間をかけて地道に説明と納得が得られていることが、結果につながりを持たされていると考えられる。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A	
標準項目		利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
		利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
		アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A	
標準項目		計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
		計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
		計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
		計画を緊急に変更する場合のしきりを整備している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A	
標準項目		利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
		計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

安心できる守られた環境

個人情報の取り扱いについては法人として策定した「個人情報保護規定」に則り「個人情報提供同意書」に事前に署名捺印を頂いた上で対応している。館内掲示することでより一層プライバシーに対する配慮が徹底できる。また、職員に対しても研修することで個人の権利、尊重した対応に努められている。

自己選択、自己決定

利用者ひとりひとりの個性を大切にひとりでも多くの利用者が就労できるようによい所を伸ばせる環境作りや職員教育が日々行われていることもあり、伸び伸びと楽しく行われている。また、個人のニーズが得られるように選択肢があることが、意欲を掻き立てられている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	☐ 利用者に関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、利用者の同意を得るようにしている
	☐ 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	☐ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	☐ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	☐ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	☐ 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	☐ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成19年度評価結果](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

すぐに手に取り実践できるマニュアルへ

手引書については現場職員や利用者などの意見から作成されたものが多くあり、現状に見合ったマニュアルとなっている為、より実践的で活用しやすいものとなっていて職員にも配布されている。しかし、すぐに活用できる場所がない為、保管場所を工夫することでもっとよりよいものとなる。

実用的で活用できるマニュアル

手引書はより時の流れとともに変化がある為、定期的に会議などを通じて見直し改善されている。また、一般的なもののから個別の対応についてのマニュアルもあることから、常に利用者本位が伺えて、より中身のある対応が望めているものと感じられた。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A
標準項目	○ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	○ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	○ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	○ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A
標準項目	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	○ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	○ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	○ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	○ 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	○ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	○ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施



サービスの実施



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

やりたいことへの段階的なチャレンジ

個別支援計画に基づいて行っているが、必ずしもやりたいことができる場所とは限らないこともあり、苦慮することがある。その為、モチベーションが下がってしまうこともある。適材適所で作業することも必要ではあるが、やりたい作業が自立につながるようであれば、できるシステムを構築していくことも必要である。

希望をもって働ける環境

法人内でグループホームの短期訓練などがあり、連携が図られていることもあり、ご本人、家族からの意見が幅広く得られやすい環境である。また、地域展開することで就労までも視野にいれた積極的な働きかけが望めている。よって選択肢があることが利用者、家族にとっては安心である。

風通しのよい環境

人間関係についてはその都度、いい易い雰囲気作りをしていることもあり、早期発見対応に努められていることで問題になる前に解決していることが多く、事故や苦情などにつながっていないと言える。

評点	A
標準項目	○ 個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	○ 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	○ 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	○ 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

やる気につながる自主性の尊重

年度末の利用者アンケートをとるなどしてやりたい作業をできるだけ意向にそって対応している。また、利用者の個々の能力に合わせて配置することでできる喜びが得られるようにしている。

個性を最大限発揮

利用者に自治会や旅行実行委員など作業以外の分野でも利用者の個性が発揮できる場が提供できている為、利用者の主体が尊重されている。それにより活き活きと自己主張できる場であり、反映することでやりがい感が得られている。

一般就労に向けて将来の安心

働く場として就業意欲が向上できるように環境はもちろんのこと、工賃についても還元できるように利益を出している。計画に基づいて実行することの難しさを実践することで安定感がある。しかし、現状維持ではなく、さらに展開することを目指し前向きな取組みと利用者、家族が一体感も感じられ、将来についての不安も軽減できている。

評点	A
標準項目	○ 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	○ 利用者が活動しやすい環境を整えている
	○ 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している

	○	工賃は利用者との合意に基づいて支給している
	○	利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている
	○	就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

働く原動力、バランスのよい食事

月1回の給食委員会で意見を出し献立会議に反映しており、嗜好調査も年1回実施。残菜調査を実施するなかでほとんど残り物がなく完食されていることから満足の得られる食事が栄養管理のもと提供されている。

おいしく召し上がれる為の工夫

食事時間は落ち着いた雰囲気で利用者のペースで召し上がれる環境にはなっているが、早く召し上がられる方が多い為、ゆっくりとかんで召し上がり誤嚥などの危険を回避する方法をとる事も今後必要に感じられた。

評点	A	
標準項目	○	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

生活改善と自立心

身だしなみを整えるなど作業を通じて、利用者のできることは自分でやることを基本に働きかけている。作業場＝清潔保持、整理整頓、身だしなみ、挨拶など基本なことが日常生活に活かされるように支援している。

評点	A	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

健康状態の不安から安心へ

健康状態の把握には年1回の健康診断、月1回の内科相談、3ヶ月に1回の歯科検診、パン作業グループは3ヶ月1回の細菌検査を実施。結果を持って利用者、家族に報告しているが、現在看護師不在の為、健康状態の日々の管理や急変時の対応など医療知識不足などを研修や各個人の医療機関の主治医との連携により、早期発見対応に努めていき、予防することができる。

正しい知識から適切な対応

個人の病状把握や通院状況などの情報を利用者、家族とより一層連携を強化することで対応が円滑にでき、知識をもって慌てずに適切な方法で対応することができる。緊急対応マニュアルの整備はもちろんだが、今以上に毎日の状態を把握することに努めていくことが望ましい。

評点	A	
標準項目		健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
		必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
		服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
		利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

手作りで多種多様な楽しみの場

毎年の年行事計画に基づいて、地域の方々とも触れ合える機会をつくることで多様な体験(経験)が実社会にいかされる場となっており、いい刺激となっていることでまた来年は何をしようかなど企画運営についても積極的に参加し、楽しむことができている。

選挙権からの権利意識

利用者自治会が年1回役員選挙で選ばれた方がなれる仕組みとなっており、利用者が主役であることが位置づけられている。したがって、利用者自身の意見が常に反映される場となっている為、満足感や充実感が得られやすい。

評点	A	
標準項目		行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
		利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

家族等への信頼と安心

家族懇談会、家庭訪問、個人面談など些細な事でも連絡帳などを通じて相談できる体制が整っている。その為、行事などの催しものの参加も多く、理解が得られていることが伺える。

適切な情報提供

家族等には制度改正などの情勢の変化も踏まえて、わかりやすく丁寧に説明することで行く末の不安が少なく済むように心がけている。結果、お互いが信頼感を持ち、任せられるぐらいである。よって事業所と家族等との絆が強さが伺える。

評点	A		
		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている	

標準項目	○	利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○	必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

計画された展開と地域とのつながり

葛飾区就労支援事業や原町成年寮の就労支援事業と連携して、福祉館利用者の一般就労の機会を拡大できるようにしており、平成20年7月に多機能痛所事業所、地域生活センター就労移行支援事業所及び生活介護事業を開設して、更なる展開を地域社会とともに歩んでいる。このようなことが地域福祉の発展にもつながり、地域住民の理解を一層得られている。

継続的な取り組み

大きな行事の「やまも祭り」は地域の学校、ボランティアなど普段関わりがある事業者も含めて、交流する機会が年々増していることから、知名度もまして社会との接点がより強化されているものとして浸透している。

評点	A	
標準項目	○	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.